

結果報告

大会名	平成28年度第68回日本ハンドボール選手権大会				
競技日	12月22日(木)	試合番号	夕	回戦	3
種別	男子・女子	会場	Iスタ八王子・駒沢体育館		
Aチーム			Bチーム		
豊田合成			明治大学		
得点合計	小計		小計	得点合計	
30	15	前半	15	29	
	15	後半	14		
		第1延長(前半)			
		第1延長(後半)			
		第2延長(前半)			
		第2延長(後半)			
		7mTC			

【戦評】

記載者氏名

梅澤 真人

春に関東学生を制し、インカレ準優勝チームとして乗り込み3回戦まで勝ち上がってきた明治。JHL序盤で連勝しながらも惜敗が続いているJHLの強豪豊田合成との注目の一戦。

明治のスローオフで試合開始。試合序盤、合成は明治2番吉野のロングシュート、6番海老原・8番門間のサイドシュート等多彩な得点源に的を絞り切れず苦戦。8分を終わったところで5-1と明治がリード。しかし徐々に明治のOFに対応し始めた合成はじわじわと点差を詰める。新加入の196cmスペイン人左腕のウーゴロペスに対して厚く当たってきた裏のスペースを、ウーゴと23番橋本のポストプレーでうまく使うなどして得点を重ねる。シーソーゲームは29分45秒に合成が1点を勝ち越す。このまま終わるかと思っただが、明治2番吉野がなんとノータイムスローを決めて15-15同点で前半終了。

後半も一進一退で進む。セットOFで攻めあぐねていた明治は9分頃から7人攻撃を仕掛ける。これが功を奏し、ミドル、サイド、カットインで加点。一方合成は3-2-1気味の明治DF相手に苦戦。14分ついに明治が逆転。その後は取りつ取られつの展開に。残り10分のところで明治1点リード。ここから明治のGK12番前原のスーパーセーブやテクニカルミスで得点のチャンスをことごとく失った合成だが、粘り強いDFで何とか1点差で耐える。すると、28分20秒、合成10番水町が速攻からセットへの移行局面をうまくつき、ついに同点。その後の攻撃もしのいた合成が素早くボールを運び、29分9秒、20番出村のシュートでついに逆転。そのまま1点を守りきり30-29で合成の勝利となった。

JHLの雄をほとんどの時間リードし、個人技でも戦術でも大学生のレベルの高さを証明した明治には、惜しめない拍手が送られた。